



令和3年度当初予算が成立／新総合基本計画がスタート

鎌ヶ谷市の令和3年度当初予算が鎌ヶ谷市議会定例会3月会議で成立しました。令和3年度一般会計予算は365億8千万円、特別会計予算（国民健康保険、介護保険、後期高齢者医療）を含めた予算総額は569億8千3百万円となります。

令和3年度は、新たな総合基本計画の開始年度であり、基本構想に掲げる5つの基本目標（1.誰もが健康でいきいきと暮らせるまち 2.子どもの生きる力をはぐくむまち 3.自然と調和した災害に強いまち 4.にぎわいと活力に満ちた緑あふれるまち 5.豊かな心と生きがいを実感できるまち）及び基本計画に定める施策のねらい等の達成を強く意識し、「子どもからお年寄りまでずっと笑顔でいられる街」の実現に向けて、3つの柱（1.未来に向けてさらなる発展につなげる街づくり 2.すべての市民が暮らしやすさを実感できる街づくり 3.産業が盛んで文化、スポーツ、緑を楽しめる街づくり）を建てて重点化を図り、当初予算が編成されました。

また市制施行50周年記念事業への取り組みをはじめ、オリンピック・パラリンピック競技大会に関連する予算を計上するほか、新型コロナウイルス感染症対策として、ワクチン接種費用や体制の構築など、市民の暮らしを守るための予算を計上しています。

令和3年度鎌ヶ谷市一般会計における主な事業を以下に紹介します。

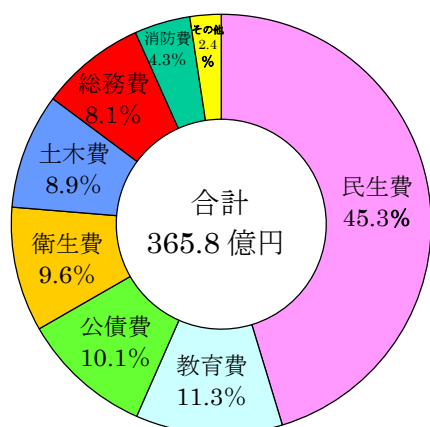
<総務費>

結婚に関する経済的な支援や若年層の流入及び定住促進を図るため、1世帯あたり30万円を補助する結婚新生活支援事業（新規）をはじめ、鎌ヶ谷コミュニティーセンターの外壁等改修工事や自治会集会所整備助成事業を実施するほか、防災行政無線デジタル化事業（アナログ方式からデジタル方式へ更新。令和3年度完了予定）、洪水ハザードマップ作成事業、福祉避難所用備蓄品や避難所キーボックス、蓄電池・ソーラーパネル等の防災対策用品の配備などを行います。

<民生費>

（仮称）東部地区児童センター整備に向けた実施設計をはじめ、令和4年4月開園予定（定員90名）の民間保育所等の整備費助成、各保育園（道野辺・南初富・栗野）の防火設備改修工事を実施するほか、離婚後の養育費の不払いにより、ひとり親家庭が困窮することを防ぐ為の養育費に関する公正証書等の作成費用の助成（新規）、児童虐待防止対策の強化を図るための要保護児童対策支援員の配置拡充、オンラインによる子育て相談等の実施（新規）、介護従事者の確保及び定着を図るため、介護職員研修受講料等の補助（新規）などを行います。

目的別歳出予算額の割合



<衛生費>

新型コロナワクチン接種費用及びコールセンター等の整備をはじめ、新生児聴覚検査費用の助成（新規）、令和2年10月から定期接種化となったロタウイルス予防接種、ふれあい収集事業（ごみ出しが困難で、他の協力が得られない高齢者や障がい者に対するごみの個別収集）などを実施するほか、馬込斎場大規模改修事業やクリーンセンターしらさぎ長寿命化対策事業など、四市複合事務組合や柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合の負担金を支出します。

<土木費>

新京成線の高架化に伴う関連側道の整備をはじめ、新鎌ヶ谷地区中街区の歩行者専用道路の整備（新規）、新鎌ヶ谷西側地区の都市計画道路整備に向けた用地取得、市道22号線（東中沢自治会館付近）の交差点改良に向けた用地取得を実施するほか、準用河川二和川整備事業、串崎新田貯留池整備、東道野辺五丁目地区や東初富二丁目地区等の地域排水整備事業、（仮称）鎌ヶ谷一丁目ふれあいの森公園等の街区公園整備事業や市制記念公園のトイレ改修工事などを行います。

<消防費>

令和3年度から令和7年度までの5カ年で公共施設39カ所にAEDの屋外型収納BOXを設置するほか、くぬぎ山消防署の資材搬送車や消防団車両の更新、鎌ヶ谷消防署の外壁及び屋上防水改修工事などを行います。

<教育費>

小中学校のICT教育環境の整備をはじめ、防火戸・防火シャッターの改修、道野辺小学校の受変電設備の改修、特別支援学級等介助員の増員を実施するほか、東部学習センターの外壁屋上防水、空調設備やトイレの改修、国の登録有形文化財に登録された澁谷家住宅や東初富テニスコートの用地取得、陸上競技場のメインスタンド及びトイレ改修などを行います。

<公債費>

令和3年度は、約36億7千9百万円を計上。義務教育施設維持補修事業や新京成線連続立体交差事業など必要不可欠な事業を実施してきたことに伴い、令和3年度から令和5年度までの間は約37億円程度まで推移し、その後は減少する見込みとなっています。

コロナ禍における女性の負担軽減に関する緊急要望書を提出

経済的な理由から生理用品を買えない女性がいる問題は「生理の貧困」と呼ばれ、発展途上国のみならず、コロナ禍により格差の広がる先進国においても顕在化しています。

日本でも、任意団体「#みんなの生理」が、高校生や大学生らを対象としたオンラインアンケートで、5人に1人の若者が、金銭的な理由で生理用品を買うのに苦労した、他の者で代用している等との結果により明らかとなりました。

国は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で孤独・孤立で不安を抱える女性を支援する、地域女性活躍推進交付金の拡充を令和3年3月23日に決定し、女性用品等の提供を交付金の使途の一つとしたことを受け、鎌ヶ谷市議会公明党は「コロナ禍における女性の負担軽減に関する緊急要望書」を3月25日に清水市長へ提出し、女性・子どもの貧困の実態把握を早急に実施し、必要とする人や児童生徒に対して、生理用品の無償配布について検討を行うよう要望しました。



清水市長に予算要望書を提出する鎌ヶ谷市議会公明党（令和2年11月 鎌ヶ谷市役所にて）
新年度予算には公明党の主張が大きく反映されました



清水市長に緊急要望書を提出する鎌ヶ谷市議会公明党

鎌ヶ谷市議会公明党の市政に関する一般質問（要旨）

富田 信恵 議員

コロナ禍における生活困窮者への支援について

本市では、社会福祉課内に「生活支援相談窓口」を設置し、生活困窮等への支援を行っていますが、コロナ禍の影響で生活に困窮する市民から、どのように相談したら良いのか分からない等のご意見が寄せられるなど、支援の手が届いていない事例をあげ、更なる制度の周知を求めるとともに、コロナ禍で一時的な収入減により生活保護が必要となる場合、自家用車や自営用資産の保持を認めるなどの弾力的な運用を国が示したことから、本市においても、これを徹底し、セーフティネットとしての機能が十分に果たされるよう要望しました。

さらに生活困窮や介護、子育てなど複合課題を抱える相談者に対する、ワンストップ相談窓口の設置について質問を行い、高齢者、障がい者、子ども、生活困窮者など既存の福祉相談窓口の充実を図りつつ、福祉分野、保健医療、就労などの分野を網羅した「地域共生相談窓口」の設置を、令和8年度を目途に計画していくとの答弁がありました。

鈴木 哲也 議員

市政の情報発信について

鎌ヶ谷市では、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける市民を対象にした様々な支援策を実施していますが、「知らなかった」「自分が対象者であることが分からなかった」などのご意見が市民の方から多く寄せられ、情報発信に対する課題があることを強く認識しました。

市ホームページでは、新型コロナウイルス感染症に係る支援策など、多数の記事が掲載されていますが、検索操作に不慣れな方にとっては、情報量も多いことから、必要とする情報までたどり着けないといった課題があることを指摘し、そうした課題を克服する対策として、多くの自治体で導入が進んでいる、プッシュ型による情報発信ツールアプリ「LINE」の活用について提案を行いました。市からは、将来的な維持管理経費を含めた費用対効果なども検証した上で、情報発信手段の一つとして検討していくとの答弁がありました。

小易 和彦 議員

国土強靱化地域計画等について（準用河川整備事業について）

準用河川二和川の馬込沢地区の整備については、下流側で県による大柏川第二調節池が事業化されたことに伴い、計画的な整備が進められることとなりました。二和川の整備区間1千メートルのうち下流側の480メートルについては、バイパスとして道路内にボックスカルバートを設置し、令和2年度末で約60%完了となります。財源として必要な国交付金についても令和2年度の国第3次補正で要望どおり配分されるなど、今後も国の重点配分が期待されることから、バイパスについては、第1次実施計画の最終年度である令和8年度末の完成を目指していくこととしています。

鎌ヶ谷市におきましては、東日本大震災以降、公共施設の耐震化、避難所備蓄倉庫の整備、マンホールトイレの整備、地域防災計画の見直しなどに取り組み、地震災害に強いまちづくりを進めております。今後とも令和3年度から始まる新たな総合基本計画をはじめ、鎌ヶ谷市国土強靱化地域計画の目標達成に向けて全庁的に取り組むことを要望しました。

伊福 幸一 議員

公共施設の感染予防対策について

保育園や学校、避難所等の感染予防対策は、市民の命を守るための重要な取り組みであります。そこで、大学機関や米の疾病対策予防センター等の研究、報告において効果的とされ、他自治体で導入が進む、オゾンや紫外線を用いてウイルスを低減、不活性化させる滅菌機等の導入について見解を伺い、市からは国や県の動向を注視していくとの答弁がありました。

新型コロナウイルス感染者や医療従事者等への差別や偏見を無くすための対策について

新型コロナウイルスに関連した差別や偏見は、断じて許されません。こうした差別や偏見を解消する取組として、全国で展開されている「シトラスリボンプロジェクト」について見解を伺い、市からは、この活動に賛同し、市ホームページに掲載していることから、広く市民の皆様にも周知するため、効果的な活用方法を検討していくとの答弁がありました。そのうえでSNS等を活用した、差別や偏見を生まないための呼び掛けについて、提案を行いました。

矢崎 悟 議員

ポストコロナに向けた今後の保育・教育行政について

新型コロナウイルス感染症の第3波が全国に拡大し、鎌ヶ谷市におきましても、昨年12月から本年3月にかけて、市内保育園の在園児や小中学校の児童生徒の感染が、十数件確認されました。

子どもの健康や命を守るための今後の感染予防対策について質問し、民間保育所等への空気清浄機やマスク、消毒液等の購入に係る費用を支援しており、小中学校では、トイレを自動照明、自動水栓にするなどの改修事業を計画的に進め、令和3年度に小学校が整備率100%、中学校が61%の見込みとなるほか、廊下にある手洗い場の水栓をハンドル式からレバー式に変更するなど、クラスター発生抑制のための非接触設備や空気清浄機、加湿器など設備の充実を進めていくとの答弁がありました。また令和3年度から本格的な学習用端末の運用が開始となる中、変化が激しく予測不可能な社会において、未来を切り拓いていく主体性や創造性を育むための一人ひとりに最適化した学校教育の実現を要望しました。

準用河川二和川バイパス整備工事現場等を視察

鎌ヶ谷市が平成28年度から事業を行う、準用河川二和川バイパス整備工事と令和3年2月に千葉県が工事に着手した大柏川第二調節池（二和川バイパスの流入地点）の現場を視察しました。



大柏川第二調節池（県整備事業）を視察

準用河川二和川整備事業は、大柏川第二調節池に接続する既設バイパス管（横下貯留池付近）から馬込沢駅までの約1kmを計画区間とし、下流から約480メートルをバイパス整備区間、残り520メートルを河川拡幅区間として整備を行い、大柏川第二調節池への放流が可能となることで、1時間あたり50mmの降雨に対応できるようになります。

バイパス整備区間では、道路下を掘削し、油圧ジャッキで土留めしながら、幅1.8m、高さ2.6mのコンクリート製のボックスカルバートを埋設する工事が行われており、令和8年度末の完成を予定しています。



準用河川二和川バイパス整備工事を視察